

4章の先行研究の検討では、関連する用語を整理した上、主として米国を中心に進められた依存症を「原発の進行性の慢性の疾患」ととらえての理解と治療を述べ、併せて依存症者を持つ家族に関する研究と対応を取りまとめた。

5章では上述の研究方法を述べ、6章で調査結果及び個別の考察、7章で全体的考察、8章で結論を取りまとめている。

調査研究の結果としては、インタビューから起こした逐語録を分析した結果、生い立ちと子どもの薬物問題が分かった時から今までを分類して329のコードが得られた。これらを整理した結果、①親の生育歴、②子育て、③事件に遭遇した時、④援助要請、⑤回復の糸口、⑥新しい人生観、⑦家族の再生、の7領域に集約でき、薬物依存症者を抱えた家族のライフストーリーを構成した。

すなわち、＜事件に遭遇した時＞まさかうちの子がそんなことを起こすわけではない。自分は満足に育ってきて、仕事も結婚も順調であったのに、なぜこの事件に遭わなければならないのかという、まさかの思いを強く持つ。自分の＜子育て＞に問題があったと自責感を持ち、なんとか自分たちの手で何とかしようとして対処する。しかしうまくいかず、本人の薬物使用は止まらず問題行動を起こすので、＜死んでしまいたい＞と親子心中や自殺を企てる。親は「死ぬか生きるか」と自分を追い詰め、「死ねない、助けを求めよう」と＜援助要請＞した時から＜回復の糸口＞が見つかり、自分の治療を始める。治療していく中で薬物依存症は病気だと理解できる。本人を家族から閉め出す（排出する）ことで、本人も治療につながり、安定した家族を取り戻す。家族は本人の自立を見て＜新しい人生観＞をもつ。そして、家族と本人がそれぞれ自立を図り、＜家族の再生＞が図られる。

薬物依存症者の家族のライフストーリーを総括すると、薬物依存問題を受容し、適応に至る共通の過程が存在していることが見出された。その適応する過程は、①ショック、②家族内除去努力、③混乱、④ターニングポイント、⑤本人の排出、⑥本人抜きの家族再構成、⑦家族の安定、⑧家族の再構築の8つの段階が存在していると考えられた。すべての家族がこの8段階を順序よく経験するのではなく、重複したり後戻りしたり、すべての段階を経ないまでも適応に至っていた。

論文提出者は、以上の調査研究の結果から、家族の薬物依存問題に適応していく過程の提示は、薬物依存問題の関心と理解を高め、早期治療と支援に介入でき、薬物依存症者と家族の回復に寄与できるものと考えており、さらにこの問題の解決に向けて3つの提言を加えている。すなわち、第一は、地域と教育・保健・医療・司法機関等で「病気」として薬物依存症の知識の普及および予防啓発を図ること、第二は、上述した家族の適応過程の①～④段階において相談機関および治療機関の充実を図ること、第三に、家族の適応過程⑤～⑧段階における治療継続を図ることである。家族が世間体など気にすることなく、安心して治療継続できるために、関係諸機関の連携と社会資源の整備を提言している。

論文審査の結果の要旨

論文提出者五十嵐愛子は、看護師の資格取得後、複数の病院精神科において臨床に従事しながら、大正大学修士課程を修了し、修士の学位を取得している。また、これまでに看護系の学術誌に共著論文 18（内筆頭著者 5）、学会発表 29（内筆頭 13）がある。

本論文は病院勤務中に経験した薬物依存問題を取り上げ、薬物依存を疾患として理解し、依存者を抱える家族がこの問題に適応していく課程を明らかにすることによって、薬物依存症者と家族の回復に資することを目的として行ったものである。

覚醒剤等違法薬剤使用の問題は、昨今重要な社会問題であり、政府も「薬物乱用防止五か年戦略」を打ち出すなどの対応を図っているが、本論文は、薬物依存を家族が巻き込まれる疾患としてとらえ、家族危機と適応課程を観察・分析して実態を明らかにすることによって、家族への支援は依存症者本人の回復にも役立つことを示した。

薬物依存症をこのような視点で捉え、民間活動に参加し、親へのインタビューを通して家族の苦渋と回復の過程及び本人の回復の状況を分析した研究は、少なくともわが国の保健福祉学、地域ないし家族看護学の分野では初めてであり、薬物依存症の理解を深め、薬物問題への取り組みに資するところが大きい。

論文審査に当たっては、本人の研究歴および論文内容についての発表を受けた後、論文内容及び論文に関連する専門知識に関わる質疑応答を、英文資料の内容を含めて行った。また最近に米国における薬物依存症回復施設ドラッグコート視察も行っており、これらにより、本人の学力が十分であることを認めた。

以上により、論文審査および最終試験の結果に基づき、審査委員会において慎重に審査した結果、本論文が博士（保健福祉学）の学位に十分値するものであると判断した。